

## 「社会課題によって害を受けている人たち」という視点

浅野泰世

ゆき先生、埴岡先生

埴岡先生のご準備くださった公開講座の一覧表で、私がこれまで受けさせて頂いた乃木坂スクールでの素晴らしいご講演の数々を感慨深く思い起こすことができました。最近、乃木坂に伺ったり、レポートを書く時間を作るのが難しい状況になっておりますが、思いがけず所用が早く終わり、駆け付けた講義で抱いた思い、それはゆき先生への感謝なのですが、それだけは、一言お伝えしたいと思いました。

乃木坂スクールを初めて受講したのは、アイデアフォーの最後のアンケートと一緒に作った、先生の講座の卒業生が、「アイデアフォーでかかわった“DIPEX”を大きく取り上げるから」と強く勧めてくださったからで、その時は1期限りの聴講と思っていました。しかし半年でこの講座の魅力のとりこになってしまいました。

この7年間、もしここに通うことがなければ、知ることができなかった社会の様々なあり様や、会うことのなかった素晴らしい人々から、多くの刺激をいただき、考える機会をいただきました。また、2015年の6月から、一年余りに渡った父親の介護は、ここに来ていなかったら全く違ったものになっていたと思います。ここで学んだことは、私を導き、その選択を精神的に支えてくれました。

今日ゆき先生のお話を伺い、理不尽な現状を変える人を応援したいという思いの強さを改めて感じました。7年間も通い続け、ただ勉強させていただきだけで、何もできず申し訳ないという思いを新たにしました。

一方で、それでも通い続けている理由に気づかせていただきました。「皆さんの心をザワザワさせることを目的やってみりました。」ゆき先生はおっしゃいました。そうだ、ここでお話を伺うたびに、私の心は「ザワザワ」したし、今も「ザワザワ」し続けている、その「ザワザワ」が大切だと思うから通い続けるのだと感じました。

埴岡先生の講義の冒頭で紹介された「社会課題によって害を受けている人たち」という言葉もゆき先生の講座に通い続けた理由をぴったりと表現してくださっていると感じました。講座で話された幅広いテーマ、それが障害、病い、依存など、いかに個人的な問題に見えようと、そして、話された先生方のかかわり方が、当事者、サポーター、専門家、行政いかなる立場であろうと、そのお話には「社会的課題による」という視点があったと感じています。

私たちは、「すべての個人が人としての尊厳を尊重されて生きる権利を持つ」と合意した社会で共に生き、意識する必要もなくその恩恵を受けています。しかし、その恩恵

を享受し続けるためには、人が尊厳をもって生きることを阻んでいる全てが、「社会的な課題」であるかもしれないという意識を持つ必要があるはずです。

ところが、未だに私たちは、人の被る不条理を個人の問題とみなし、支える責任は、まず家族にあるという考えを捨てきれないでいます。したがって福祉は社会の責任ではなく、それゆえ、国（社会）の事情が、私たちが守るべき最も大切な価値より優先され、その結果として、人間の生命と尊厳の重さに差があることを、私たちは暗黙の裡に容認してしまっています。そのことは、この社会で共に生きる私たち全てにとって、きわめて危険で恐ろしいことのはずなのに。

この社会の危うさ、そこに生きる全ての人が直面する危険を、誰よりも敏感に感じ、そのことを私たちに教え、さらに、そのような状況を変えようと闘っておられる、それが、ゆき先生の講座に登壇なさった方々でした。私は、講演された先生方に多くのことを教えて頂いただけでなく、より良い社会に生きることができているという、恩恵も受けているのだと感じてきました。そのよう大きな恩に報いるために、私ができたことといえば、お言葉を受け止めることだけでした。7年が過ぎても、いまだそれしかできていないので、私はまだまだこの場が必要なのです。

かけがえのないこの講座が未永く続くためにも、ゆき先生にはどうか何時までもお元気でいていただかなければなりません。それを心より願っています。

最後に、ゆき先生、埴岡先生、本日のこの貴重な機会をありがとうございました。